

記者懇談会

日時 令和5年4月21日（月）

午前11時から

場所 市役所3階 大会議室

1 市長あいさつ

記者の皆様には日頃からお世話になりありがとうございます。また、取材をしていただき感謝申し上げます。

先月、道の駅もできましたし、今年度は大河ドラマ「光る君へ」も放映されるので、その準備を着々と進めています。年度内には放映が始まるので、大河ドラマ館の整備など、さらに話題を出していきますので、引き続き、ご協力をお願いします。

今回の趣旨ですが、発表項目がありますが、その後、いろいろと話題提供や今後の取材の参考にさせていただくようなことも私の方からご説明するやり方をこれから頻繁にやれるようにしたいと思っているのでよろしくお願いします。

2 発表項目

(1) 令和5年度4月専決補正予算の概要（資料1）

一般会計の補正予算2億4800万円を、本日、専決処分いたしました。

これは、エネルギーや食料品など物価高騰の影響を受けている低所得の世帯へ給付金を支給するため、必要額を計上しています。

住民税非課税世帯には1世帯につき3万円、だいたい5,600世帯であります。低所得の子育て世帯には児童1人に対して5万円、これが1400人ぐらいと試算しています。

国のほうでは、昨年度の予備費を活用するというので、先月閣議決定し、臨時交付金や国庫補助金を財源としています。

これにつきましては、他の市でも、同じように専決処分にて行うところもありますし、場合によっては議会に諮るところもあると思いますが、一刻でも早く予算化して執行したいということで、議会のご理解も得て本日付けで専決処分をし、少しでも早くお手元に届けられるように準備をしたいと考えております。

低所得子育て世帯生活支援特別給付金は、5月下旬に、住民税非課税世帯等支

援給付金は、7月中旬に振り込みを予定しています。

住民税非課税世帯等支援給付金の対象世帯の内訳は、非課税の世帯がだいたい5500世帯、家計急変世帯として100世帯、あわせて5600世帯です。

夏になるとクーラー代など電気料金もかかってきますので、それまでに支給したいと考えています。

(2) ふるさと納税の実績について (資料2)

令和4年度の寄附受入額は、当初8億円を目標としていましたが、9億7千9百98万8,500円となりました。

さらに、令和5年度は、目標を12億円と掲げており、寄附サイトを新たにふるなびと、さとふるを増やして、さらに新しい返礼品の開発も行います。大河ドラマ館や新幹線もありますので、ふるさと納税をすることによって、1つは越前市の認知度を知っていただくチャンスを少しでも増やすということ、それと、ふるさと納税の返礼品として使う地場製品の売り上げを拡大するというのが2つ目、さらにふるさと納税として税収があると、新しい施策、例えば、子どもの医療費の無償化などにあてるなど、この3つのポイントがこのふるさと納税にはあります。

特に、今はこの新幹線開業を前にして、少しでも認知度を高める機会としてふるさと納税を積極的に活用していきたいと思っています。

(3) ブランドハンドブックの活用 (冊子)

中をご覧いただいて、またご意見をいただけたらと思いますが、従来、こういったものは観光パンフとか食の案内パンフとかそれぞれに作っていてバラバラでしたので、私が例えば、国などへ出向いて越前市の紹介をするときに、だいたいこんな町ですよと紹介するのに使いやすい。県でもブランドハンドブックを作っているが、それとよく似たコンセプトとなっていて、どんな町で、何があって、どんな食べ物があって、どんな産業があって、そういったことがパラパラと見れば分かります。

従来のブランドと言われるものだけではなくて、歴史文化、いわゆる文化県都としての越前市をアピールするものとしても活用していきたいと考えています。いろいろなところに持っていきたいと思っています。

ピックアップしているので、あまりたくさん量になると乱雑になってします

ので、割と荒っぽく選んで、項目を限定して、シンプルに仕上げています。

表紙のデザインは三木あいさんのデザインです。シンプルなデザインとなって私はいいなあとと思っています。

(4) 『漫画正倉院』展PART 1について (資料3)

雁皮100%使用の越前和紙に、4人の漫画家が書いた絵を展示するものです。また、複製原画は5人の漫画家さんの出展があります。

漫画はコアなファンが多いので、全国的な広まり、注目を集めるものと考えています。

和紙はものによっては1000年以上ももつというものもありますので、この企画は、これらの作品を末永く保存していくために、最新技術を用いて複製したのもも展示もし、比較しながらご覧いただけます。

(5) 越前さとの輪プロジェクトについて (資料4)

山菜シーズンになりました。今回、越前市とJA越前たけふが連携し、「越前さとの輪プロジェクト」ということで、農福連携によりまして山菜の試行販売を実施するものです。

白山・坂口地区の高齢者が地元で採取した山菜をJA越前たけふが集荷し、障がい者福祉施設「ぴーぷるファン」に持って行って、分別と小分け包装を行い、それを「しきぶ温泉 湯楽里」ですとか「そばの里」において販売するという仕組みです。

湯楽里と白山の3つの団体と市が「食と農及びエコグリーンツーリズムに関する連携協定」を締結しており、今回の取組みはその一環です。

当面は、その地域において、毎週火曜日に、地元の人たちが山菜を持ち込み、JA越前たけふが集荷していきます。その最初が4月25日となります。私もその日には行く予定をしておりますが、是非とも取材をお願いしたいなと思っています。

いわゆる葉っぱビジネスは、高齢者の方の生きがいであり、ちょっとしたお小遣いにもなり、高齢者福祉にも障がい者福祉にも繋がるということで、こういう仕組みが広まって横展開していくといいなと思います。

野菜でやられたことはあるかと思いますが、山菜ということで非常におもしろいかなと思います。山菜ですので山に入るきっかけにもなるのかなと思います。

(6)「BAMBOO EXPO19」への紹介ブース出展(資料3)

(観光誘客課から説明)

越前市の観光振興プランでは、伝統工芸などの「手仕事」の価値に共感し、適切な対価を支払い、使い手やファンになってくれる「トップ層」やトップ層の影響により一定額の消費行動が見込める「ミドル層」をターゲットの1つに据えています。

BAMBOO EXPOは、店舗や商業施設などの空間デザインに使われる内外装材や、様々な素材などを集めた国内では唯一無二のユニークな展示会です。

来場者は2日間で2,000人～2,500人程度が想定され、そのうち約7割が建築家やデザイナーらの「トップ層」や「ミドル層」になりうる方で、その来場者に対し、「越前」や「越前和紙」の認知度向上や認識の深化を目指します。

今回は、越前市観光協会が同会会員の越前和紙関係事業者と連携し出展します。

ブースを出展するだけでなく、イベント会場でのトークショーで越前和紙のPRも行います。

今月10日、11日には、乃村工藝社の小坂竜さんとBAMBOO EXPO主宰の笈川誠さんが越前市に視察を行い、その内容をもとにトークショーに登壇し、「トップ層」の視点から「越前」や「越前和紙」の魅力を来場者にお伝えします。

3 質疑要旨

【質問】ふるさと納税について、令和4年度の寄附額はこれまでの最高額か。

【回答】令和3年度は5億7千万、ここから3億円余りの増加で、過去最高額。

【質問】その前(令和2年度)は。

【回答】令和2年度は4億4千万。

【質問】今回伸びた要因は。

【回答】ふるさと納税の返礼品の充実と効果的なPR、新しい返礼品など。

【質問】新規のふるなびと、さとふるは昨年度からの新規ということか。

【回答】令和5年度に新たに開設する。それぞれのサイトに利用される顧客だとか選ばれる返礼品に傾向があるので、それぞれ特色にあわせて行っていく。今年の夏を目途に開設を進めている。返礼品開発とセットでなければならない。これまで売っていたもの以外の他のものを用意して、返礼品にふさわしいものを開発することが大事かなと思っている。

【質問】今の3つのサイトの中で昨年度から増えたものは何か。

【回答】ふるさとチョイス、楽天が主にのびている。三越については概ね前年並みとなっている。

【質問】返礼品の中で、主に何が一番好まれているのか。

【回答】好まれているものとしては、越前市で加工された魚介類、越前市で採れたたまご、無農薬の米、市内で製造されたイヤホンが主なもの

【質問】全国的な傾向といえるが、実用的なもの、消費しやすいものが好まれているが、返礼品を開発するうえで、今後、こういった分野のものを作りたいのか、イメージがあったら聞かせてほしい。

【回答】人気があるものは、肉や魚、米など食べる物、ちょっと贅沢な、普段買えないものに注目が集まっていると思う。イヤホンは若者たちが安い負担で入手できるので人気がある。食に関するものはもっといろいろあると思っていて、六次化を進めたり、有機を使った商品など、コアなファンがいるので、そういったものを全面に安心安全な食を提供できたらと思っている。伝統産業、地場産業の中でも、もう少しふるさと納税向きの商品開発をすれば、できることはたくさんあると思う。そこが手つかずの部分が多くあるので、伝統工芸、地場産業の振興とあわせて、ふるさと納税のほうでも需要開拓をしていくことをやりたい。

【質問】ブランドハンドブックのアクセス時間のところだが、これは、大阪開業後の時間なのか、越前たけふ駅開業後の時間なのか。

【回答】全線開通後の時間である。

【質問】どれくらい作成したのか。どこで手にはいるのか。デザインはどなたがされたのか。

【回答】3,000部作成。希望があれば、随時、配付するが、パンフレットの棚において置くものではなく、企業等へ訪問に行った際や大学や高校生の地域のふるさと教育など、直接コミュニケーションのとれる場においてお渡ししながらお話していきたい。デザインは市内の三木あいさんのデザイン。